

3. 接続と測地線の計算例

n 次元球面

\mathbf{R}^{n+1} 内の n 次元球面

$$S^n = \{\mathbf{x} = (x^1, \dots, x^{n+1}) \in \mathbf{R}^{n+1} \mid \|\mathbf{x}\| = 1\}$$

に、ユークリッド計量から導かれる Riemann 計量を入れると

$$g_{ij} = \delta_{ij} + \frac{x^i x^j}{(x^{n+1})^2}$$

となる。これを用いて Riemann-Christoffel 記号は

$$\Gamma_{ij}^\ell = x^\ell \left(\delta_{ij} + \frac{x^i x^j}{(x^{n+1})^2} \right)$$

と表される。 S^n 上の測地線 $\xi(t)$ の満たす方程式は

$$\frac{d^2 \xi(t)}{dt^2} = -\xi(t)$$

である。初期条件 $\xi(0) = (a^1, \dots, a^n, 0)$ を満たす測地線は

$$\xi(t) = (a^1 \sin t, \dots, a^n \sin t, \cos t)$$

となる。

双曲計量

上半平面

$$\mathbf{H} = \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 \mid y > 0\}$$

に、Riemann 計量

$$ds^2 = \frac{dx^2 + dy^2}{y^2}$$

を入れ、これを双曲平面という。零でない Riemann-Christoffel 記号は

$$\Gamma_{12}^1 = \Gamma_{21}^1 = \Gamma_{22}^2 = -\frac{1}{y}, \quad \Gamma_{11}^2 = \frac{1}{y}$$

となる。測地線の満たす微分方程式は

$$\frac{d^2x}{dt^2} - \frac{2}{y} \frac{dx}{dt} \frac{dx}{dt} = 0$$
$$\frac{d^2y}{dt^2} + \frac{1}{y} \left(\left(\frac{dx}{dt} \right)^2 - \left(\frac{dy}{dt} \right)^2 \right) = 0$$

となり、この解は a, b, c を定数として

$$x = a \tanh ct + b, \quad y = \frac{a}{\cosh ct}$$

または、

$$x = a, \quad y = e^{ct}$$

で与えられる。これは、 x 軸に直交する半円または半直線である。

双曲平面の計量は $SL(2, \mathbf{R})$ による 1 次分数変換で不変であり、非ユークリッド幾何学のモデルを与える。